

在宅療養支援のための多職種連携研修会開催要領（案）

－医療と介護の連携・協働をめざして－

1 目的

高齢者の誰もが安心して住み慣れた地域で、人生の最期まで自分らしい暮らしを送るためには、医療・介護関係者が連携協働しサポートしていく必要があり、療養者及びその家族のニーズに沿った在宅療養を支援するには、関係者の顔の見えるネットワークづくりがとても大切である。

そこで本研修は、在宅療養を支える医療・介護関係者が在宅療養の現状や課題、将来の展望などを共通認識として学び、相互理解を深め、共に課題解決のための対策を検討するとともに、顔の見える関係を構築していくことを目的とする。

2 学習目標

- (1) 互いの専門職の視点や専門性を理解できる
- (2) 在宅療養の現状や課題について、多職種間で共有できる
- (3) 支援者として介入時に何を考え、どのような行動（対策）をとることが必要か、多職種間で相互理解ができる
- (4) 自分自身の判断や行動の根拠を説明できる
- (5) 専門職として共通認識しておくことが望ましい基礎的事項と実践例について学びを深め、顔の見える関係を構築することができる

3 シリーズ研修内容

第1回 多職種連携に必要なエチケットやルールを再確認しよう（演習）

- ア 同職種間でグループワーク
- イ 多職種間でグループワーク
- ウ 発表による全体共有

第2回 在宅療養を支えるために必要な支援（連携）を多職種チームで考えよう

－様々な職種の視点から－（討論＋演習）

- ア パネルディスカッション
パネラー：医師、看護師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、ケアマネジャー、
医療ソーシャルワーカー、PT・OT・ST、生活支援コーディネーター等
- イ グループワーク（事例検討）

第3回 呉市の在宅療養支援の現状と課題、その対策を考えよう（演習）

- ア 同職種間でグループワーク
- イ 多職種間でグループワーク
- ウ 発表による全体共有

第4回～ 多職種意見交換会（複数回開催）（講義＋演習）

※抽出された呉市の現状と課題からテーマを設定し、講義・意見交換等を行う

- ア 専門職による講義
- イ 多職種間でグループワーク（意見交換等）

4 方法

参集型とオンライン型のハイブリット形式

5 対象者

病院勤務医, 在宅医, 訪問看護師, 病院勤務看護師, 薬剤師, 管理栄養士, 歯科医師, 歯科衛生士, MSW, ケアマネジャー, ヘルパー, PT・OT・ST, 地域包括支援センター職員, 介護サービス事業所職員, 生活支援コーディネーター

6 開催時期

令和5年1月以降で通年